増田院長の 今日もニコニコ VOL.21

院長
増田 剛

今回は消化器外科の診療にフォーカスして編集しました。1978年に誕生した当院は、消化器診療を中心に成長してきたと言っても良いほど多くの消化器がんを診てきました。それぞれの分野で当時のトップレベルの専門施設に順番で研修に出かけ、そこで得た知識と技能を当院で展開することで、病院としての発展の礎を創ってきたと言えます。今回登場した3医師もその伝統を受け継ぎ、当院での初期研修後に外科の基礎を身に付け、各分野の専門研修に出かけて腕を磨いてきた気力、知力、体力が充実した中堅医師たちです。手術が必要になった時に是非この顔を思い出して頂き当院外科にお出で下さい。また、手術の重要なパートナーである麻酔科医の奮闘の様子も紹介出来て良かったと思います。少ない人数で、毎日の緊張感満載の仕事を担当してくれる麻酔科の存在無しには消化器外科診療の発展はあり得ません。その頑張りには脱帽です。こうしたチームが皆さんをお待ちしております。消化器がん診療は当院にお任せ下さい。

虹の投書箱だより

投書のご紹介

希望の先生の手術でしたが、当日になって手術直前までは怖くて胸が張り裂けそうでした。手術室の中に入って、私の好きな音楽やアロマの香り、スタッフの優しい笑顔に迎えられて怖さを忘れ、気がついたときは手術が終わっていました。約2週間の入院でしたが、スタッフの皆さまには感謝でいっぱいです。本当にありがとうございました。

この度は虹の箱の投書をしていただきましてありがとうございました。

入院や手術での不安なお気持ち、リハビリの辛さのなかでの入院生活で私どもがお役に立てて嬉しく思います。患者様が安心して入院生活が送れ、元気に退院して行かれることが、私どもの励みになっています。温かいお言葉ありがとうございました。

（D2病棟看護長　佐藤 笑美子）

埼玉民医連
発行：医療生協さいたま 埼玉協同病院

埼玉協同病院だより　●私たちの医療理念●　～人権をまもり、健康なくらしに役立つ医療を、地域とともにつくります～　発行：埼玉協同病院

季刊 ふれあい 春号

2020年 3月
No.21

〒333-0831　川口市木曽呂1317
Tel.048-296-4771
Fax.048-296-7182
ホームページ：http://www.kyoudou-hp.com

特集 協同病院の 消化器外科のがん手術
住みなれた地域で、よりよいがん手術を

左：佐野貴之 医師
中央：栗原唯生 医師
右：重吉　到 医師

1月29日 後期総合防災訓練を行いました

夜間に地震があり病棟で火災が発生する想定で、報告・消火・避難誘導の訓練を行いました。

職員と関係者が49名参加しました。火災発生後の連絡が遅れたものの、避難誘導は職員がストレッチャーやシーツをうまく使用しながらスムーズに対応できていました。

防災訓練の前日には、院内の防災設備についての事前学習会を行い37名が参加しました。

協同病院の

消化器外科のがん手術

住みなれた地域の病院で、よりよいがん手術をうけたい―。こうした思いをうけて、埼玉協同病院では地域に根ざした外科診療を行ってきました。いま、総勢12名で幅広い外科治療を実施。今号の特集では、消化器外科のがん手術にスポットをあてます。

地域の中で、しっかりと手術を受けられる。多職種での連携や、トータルな治療も特徴です

埼玉協同病院は、県指定の「埼玉県がん診療指定病院」です。消化器がんの外科手術も多く行い、技術力とチームワークで患者さんを支えています。その特徴を３人の外科医が語ります。

佐野 貴之
医師（大腸担当）
外科 外科副部長、副医局長

栗原 唯生
医師（肝胆膵担当）
外科 外科副部長

重吉 到
医師（胃担当）
外科 D3病棟医長

専門性を持ちつつ、患者さんの全体を診る

佐野：消化器外科では、胃や大腸、肝胆膵などのがんの手術を行っています。それぞれ専門分野がありますが、しっかりした治療をして患者さんを治し、早く社会生活に戻れるよう、腹腔鏡手術を中心に、低侵襲（身体的負担が少ないこと）の手術を心がけています。

重吉：進行した胃がんでは、開腹手術も多いです。なるべく合併症を起こさないように、QOL（生活の質）を考えながら治療しています。高齢の方や外国人の方が多いのも当院の特徴ですね。

栗原：肝胆膵では、長時間に及ぶ大きな手術が珍しくありません。患者さんの体力的な負担も大きいですから過不足のない治療ができるように気をつけています。

佐野：体制としては、専門病院とは異なり、大腸、胃、肝胆膵それぞれのチームが完全に分かれているわけではないので、各人の専門性を生かしつつ、全員で協力して対応する柔軟性がありますね。

栗原：全身をトータルに診るように心がけているのも特徴だと思います。特定の部位だけを治療するのではなく、他にも病気がないかを調べて、あれば治療に誘導します。手術がうまくいっても、すぐに他の病気で調子がわるくなってしまうことは、本当に健康を守っていることになりませんから。

地元の安心感と信頼できる技量

栗原：地元で手術を受けるメリットも大きいと思います。医療は、暮らしている地域で受けられる方が安心ですよね。いつでもかかれるし、過去のデータが蓄積されているので、どういう人で、どんな病歴で、どんな薬を飲んでいるかがわかります。ですから、緊急時にも正確かつ迅速な治療ができるわけです。病院が近いとお見舞いにも来やすいですし。

佐野：そうですね。手術後、５年間くらいは通院することになるので、交通費などの負担を考えても、地元の病院の方がかかりやすいと思います。

重吉：協同病院では、医師やスタッフの入れ替えが少なく、同じ医師が何十年も続けて診ることができます。そのことも、患者さんにとっては安心ではないでしょうか。とはいえ、昔ながらの方法で手術をしているわけではなく、医師は全員、がんセンターなどの専門病院で研修を受け、学会に積極的に参加するなどして、常に最新の技術や知識を学び、治療に取り入れています。

佐野：他の病院の手術を見学することもありますね。院内では術前・術後のカンファレンスで手術内容を振り返り、改善すべき点や良い点を見直し、全員で技量を高め合っています。

全員で患者さんを支える多職種連携の強み

栗原：多職種の連携が強いことも協同病院の特色ですね。医療相談員やリハビリスタッフの数がかなり多く、充実していると思います。在宅診療の先生への連絡も、医療相談員さんが迅速に動いてくれ

ます。こうしたチーム医療では、地域でもかなり先端を行っているのではないでしょうか。

重吉：スタッフと医師との距離が圧倒的に近いですよね。高齢の方や認知症の方への対応も丁寧な印象があります。その人にとってどういう術後の生活がいいのかを医者と看護師が話し合い、スタッフと連携し、しっかり考えていくことがうちの病院の利点でもあるし、目指すところではないかと思います。

栗原：そうですね。自宅での過ごし方までしっかり整えてから退院させる病院は、他にはなかなかないかもしれません。多方面から介入しないと治療が難しい方には、そういった配慮が特に重要です。

技量を高め、真心を込めて患者さん中心の医療を貫く

佐野：協同病院は「患者さん中心の医療」を掲げていますが、理想とするだけでなく、みんなが実践していることを感じます。うちの看護師さんやスタッフは、真心があるというか、患者さんへ接し方がすごく優しいんです。

重吉：病気だけでなく、生活状況もすべて含めて、一人ひとりの患者さんをしっかりと診る。そして、一般的に行われている効果のある治療や、より良い手術法を無理のない範囲でやる。それを徹底して心がけていますよね。

佐野：外科医としては、技量を高めて、いい手術をすることが第一だと考えています。手術を受ける患者さんにとって一番良いことは、外科医に技術があることと、合併症をつくらないことですから。自分が手術したことによって患者さんが再発せずに経過し、喜ばれると本当に嬉しいです。

重吉：そうですね。腫瘍を取ったら食べられるようになったなど、結果が見えやすいことが外科医としての喜びです。ただ、外科手術は、できるようになるまでにすごく時間がかかるんですよね。これがもうつらくて。力不足を自覚しては、できるように努力するしかない。そうやって技術をつけることで、医者にしかできないことをできるようになるのだと思います。時間がかかるし、自分自身もすり減るけれど、「人の体を切る」という特別なことをさせていただいていると思います。

栗原：外科手術には、一人ひとりに命がけの人間ドラマがあります。患者さんやご家族の姿から勉強させられることも多いです。だからこそやりがいが大きく、使命感を感じています。がんと診断された方は多くの不安を感じていらっしゃいますが、お金のことを気にされて治療をためらってしまう方もいらっしゃいます。当院では差額ベッド料がないことは、患者さんにとっては安心だと思います。

佐野：あまりお待たせしないよう、なるべく術前検査を早くして、初診から１カ月以内には手術できるように努力しています。緊急対応も可能な限り行っていますので、ここで手術を受けたいという方、ぜひご相談ください。

手術室看護師に聞く！
外科のがん手術

入院前から手術後まで患者さんとご家族を支えます。

何千もの器械や、手術の手順、執刀医の癖まで熟知し、高い専門性で手術を支えるのが手術室看護師です。患者さんやご家族の心のケアも行い、心を込めて寄り添います。

皆さんの不安を少しでも軽減できるように

斉藤 今日子　看護師　手術看護科　主任

がんの手術は人生の中でも大きな出来事ですから、不安になるのが当たり前です。そうした患者さんやご家族を支え、少しでも不安を軽減できるように関わるのが私たち手術室の看護師。全員で患者さん一人ひとりを理解して看護するよう努めています。入院前の麻酔外来や、手術前の術前訪問で患者さんの不安を聞き取り、多職種とも情報共有し、協力を得ながら、患者さんが治療に専念し、リラックスして手術を受けられるようケアします。

手術室では、「器械出し」と「外回り」の担当看護師が責任をもって看護するとともに、控え室で待っているご家族のために、３時間ごとに手術の状況をお伝えする術中訪問を行っています。控え室に入った私たちの顔を見るだけで涙されたり、「順調ですよ」という言葉に「安心しました」と言ってくださったり、数々のドラマがあります。術後にも患者さんを訪問して、回復の様子を拝見します。そこで笑顔が見られることが、私たちの何よりの楽しみです。地域の開業医の先生方からも、「埼玉協同病院なら大丈夫だ」と言っていただけるよう、全力を尽くします。

笑顔を心がけて患者さんの力になりたい

高橋 寛　看護師　手術看護科

外科病棟から異動して１年。大きな手術をした患者さんが数日後に歩いている姿を見るたびに、人間の生命力のすごさを感じます。先日、「不安でたまらなかったけれど、手術室の扉が開いた瞬間、看護師さんたちが笑顔で、優しい目をしていたので、とたんに不安がなくなった。気づいたら手術が終わっていたよ」と、患者さんが涙を浮かべながら話してくださり、胸が熱くなりました。手術室では普段、帽子とマスクをしているので、患者さんがいらっしゃるときは必ずマスクを外し、目線を合わせて挨拶するように心掛けています。安心していただける看護ができるよう、これからも頑張ります。

がんになっても働き続けるために

治療と仕事の両立を支援しています。

がんになったら、仕事を辞めないと治療ができないと思い込んでいませんか？
埼玉協同病院では、医師や看護職、社会福祉士が連携し、患者さんの身になって、相談に乗っています。

生活状況や希望に応じて、治療方法を工夫

内川 聡美
看護師　D3病棟看護科
がん化学療法看護認定看護師

抗がん剤治療は様々な副作用が出現します。その中でも手や足にしびれが出現する副作用は日常生活や仕事に支障をきたしてしまう可能性があります。患者さんの生活状況や仕事内容を踏まえた抗がん剤の選択や通院回数の調整など、仕事を継続できる方法を一緒に考え、時には配置転換を申し出るなどの職場との交渉もお手伝いしています。

副作用をコントロールすることが治療継続の鍵とも言えますので、私たちは副作用の観察に力を入れています。副作用を我慢するのではなく、症状に応じて支持療法（副作用に対しての予防策や症状を軽減させるための治療）を強化したり、医師や薬剤師と連携し抗がん剤の量を調整したりして治療が継続できるよう支援しています。

治療にあたり経済的困難を抱えるケースは社会福祉士と連携し、問題解決に尽力しています。

療養費の不安にも、あらゆる手立てを尽くします

水本 留美子
社会福祉士　医療社会事業課　主任

当院は、埼玉県がん診療指定病院として「がん相談支援センター」を設置しています。療養費の問題は深刻で、「働かなければ生活できないから」と治療を受けない選択をする方もいます。

そうしたお金の心配なく治療ができるよう、患者さんの事情を確認し、健康保険の高額療養費制度や、会社の傷病手当金制度など、考えられる制度を活用します。それでも大変な場合は、無料低額診療制度などを活用した手立ても講じます。実際に活用できるように働きかけ、治療に向かう気持ちを引き出すための支援を行っています。

また、退院後のベッドの手配や往診など、経済面以外のコーディネートを総合サポートセンターで行っています。不安なく、生活しやすい世の中になればとの思いで、社会保障制度を良くするための署名活動にも取り組んでいます。

埼玉協同病院リニューアルによる「2つの病院」建設の今

昨年10月の設計施工業者選考プレゼンを経て、株式会社竹中工務店に確定しました。病院内や組合員の声を聞き、基本設計に取り組んでいます。組合員や職員のよくある質問をまとめました。

掲載CGは計画段階のものであり、施工上等の理由により変更となる場合があります。提供：竹中工務店

Q どうして、診療所ではなく病院なのですか？

A 新しい病院は、現在の協同病院の北側に建設予定ですが、この一帯は市街化調整区域のため診療所の建設が認められていません。また、条例によって建物の高さが10mまでに制限されているため２階建を予定しています。入院の機能は地域包括ケア病棟となり、在宅療養を支援したり急性期治療後のリハビリ等を目的とした入院に対応します。

Q 新しい病院とリニューアル後の埼玉協同病院へはどうやって行き来できますか

A それぞれの２階をつなぐブリッジ（橋）を設置する予定です。

Q 新しい病院とリニューアル後の病院は、どんな病院になりますか

A 新しい病院の外来には、現在の埼玉協同病院の外来機能がほぼ移る予定です。また、健康増進センターも新しい病院で拡充される予定です。時間外、夜間休日の急患の受診はこれまでの埼玉協同病院が救急受け入れ機能を高めて対応することになります。

こちらHPHです！

※ HPHは、健康増進を患者さま・地域・病院職員ですすめていくWHO（世界保健機構）が推奨する国際的な病院ネットワークです。

2019年度 ヘルスプロモーション取り組み報告

ミニ健康講座

来院されるすべての方を対象に、ポスター掲示や講義形式での健康情報の提供や、5分程度でできる簡単な健康チェックを行っています。

1階の生協コーナーでは「待合保健室（健康相談）」「禁煙のおすすめ」「正しい手洗いとマスクの付け方」を実施し、小学生から年配の方まで多くの方にご参加いただきました。

病棟では「骨の健康と転倒予防」「介護者教室（食事と口腔ケア）」を開催しました。

2019年度からは、地域にもどられたあとも健康の取り組みができるよう、ミニ健康講座の際に地域で組合員さんが取り組んでいる「健康ひろば」やサロン、おしゃべり会（安心ルーム）、組合員の有償ボランティア「くらしサポーター制度」をご紹介すること（地域活動のご案内）も始めました。

WHO国際デー啓発キャンペーン

毎年、WHO（世界保健機関）が定めた健康に関する国際デーにあわせ、大型ショッピングモールで啓発キャンペーンをおこなっています。世界保健デーや世界禁煙デーは10年以上、川口市の後援もいただいて開催してきました。

2019年度は、新たに「世界糖尿病デー」（11月14日）にあわせ糖尿病啓発キャンペーン（糖尿病に関する基礎知識、血糖チェック、多職種による健康相談）を開催し、大変ご好評をいただきました。

2020年度　取り組み予定

WHO世界保健デー・世界禁煙デーイベントは、今年も川口市の職員さんと一緒に取り組む予定です。

また、院内でもミニ健康講座を開催いたしますので、ぜひお立ち寄りください。

イベントが中止・延期になる可能性があります。最新情報は病院ホームページでご確認ください。

地域でのイベント予定

WHO世界禁煙デーイベント

[日時] 5月26日㈯ 11:00 ～ 15:00
[会場] イオンモール川口前川（サウスコート）
[内容]
- 健康チェック
- 健康相談
- 禁煙相談
- 禁煙外来のご紹介

院内でのイベント（ミニ健康講座）予定

簡単エクササイズ ～足腰を鍛えよう
（リハビリテーション技術科）
[日時] 4月22日㈬ 10:00 ～ 11:00
[場所] 生協コーナー

手指衛生 ～正しい手の洗い方
（感染管理認定看護師）
[日時] 5月12日㈫ 11:30 ～ 12:30
[場所] 生協コーナー

※内容、日程が変更になる場合もございます。詳細・変更は院内電光掲示板、月刊ふれあいでお知らせいたします。

埼玉協同病院は今後も地域の健康力アップのための活動を進めていきます

病院を支える仕事と人
事務系 職場紹介……①地域連携課

▶ 紹介患者の電話・窓口対応

地域連携課では、主に紹介状をお持ちの方の電話や窓口での問い合わせ対応を担っており、よりよい形で患者さんが受診できるよう調整を行っています。紹介状の宛先や症状を聞き取り、看護師や医師など専門職と連携しながら受診案内をしています。後日専門医のご予約をお取りする場合や、時間外でも受診の必要性があれば救急受診をご案内しています。病院の最初の窓口となるため責任をもって聞き取りを行っています。

▶ 地域の開業医と関係づくり

地域連携の部門では地域の開業医への訪問を担当し、当院で新しく開始した手術のご紹介や、開業医の先生方から困っていることやご意見などをお伺いして院内で共有する仕事をしています。日頃から顔が見える関係づくりを積極的にすすめています。

▶ ただ断る、ことはしたくない

早めの受診の必要性があれば、予約の空きがなくとも、医師や検査担当に緊急で対応できないか相談しています。一方で、当院で対応できない疾患のお問合せもあります。その時はたとえ強く受診を希望されても、患者さんのためにとお断りすることも。その際には、ただ断るだけでなく他に受診できる病院を提案できるように、日頃から地域の病院の地域連携担当者と情報交換して医療機関情報を集める努力もしています。

組合員さんへのメッセージ

紹介状を頂いたらまずは地域連携課048-297-9852へお問合せください。来院されましたら総合受付カウンターの紹介専用窓口にお声をおかけ下さい。

たまねぎベービーといっしょに
子どもの排便習慣

食生活の多様化などにより、便秘に悩む人は増え、子どもの便秘も増えていると言われています。

学校のトイレでは排便がしにくい、便が硬くなると痛みを感じ、小さなお子様は排便が怖くなるなど、我慢してしまうことで便秘につながる悪循環もおこります。からっぽの胃に食べ物が入ることで刺激を受けて便意がおこることからも、朝がいちばん排便に適した時間帯です。ぜひ小さなうちから排便習慣を身につけ、将来の健康につなげることができるといいですね。

排便習慣を身につけるための10ヶ条

① 早寝早起き、規則正しい生活を！
② 朝は余裕をもって、排便の機会を逃さずに！
③ 朝、リラックスしてトイレに座る習慣を！
④ 便意を感じたら我慢せずにトイレに行こう！
⑤ バランスのよい食事を3食しっかり、よく噛んで！
⑥ 食物線維・乳酸菌・ビタミンを含んだ食品や水分摂取も心がけて！
⑦ 日中は適度に体を動かして、夜はぐっすり！
⑧ うんちをすることの大切さを伝えよう！
⑨ すっきりいいうんち、明るく笑顔で排便をプラスのイメージへ！
⑩ お子さんの排便習慣・排便状態を把握しておこう！

便通は健康のバロメーター、家族みんなでよい排便習慣を！
便秘が気になる時は小児科で相談を！